



2023年は  
新美南吉生誕110年

半田市制85周年記念特別展

# 南吉の昭和17年

～私は死ぬ けれど私の仕事は死なない～



2022年

7月16日(土)～11月6日(日)

※新型コロナウイルス感染状況により会期が変更になる可能性があります。

■開館時間……9時30分～17時30分

■休館日……7/19(水)・25(月)、  
8/1(月)・8(月)・9(水)・22(日)・29(月)、  
9/5(月)・12(月)・13(水)、  
10/11(水)・12(水)・17(月)・24(月)・31(日)

■観覧料……常設展観覧料220円(中学生以下無料)で  
特別展もご覧いただけます。

学芸員によるミュージアムトーク 13時30分～14時

7/18(水)・30(土)・8/13(土)・28(日)・9/19(水)・25(日)、  
10/10(水)・22(土)・11/6(日)

生誕祭 ※南吉さんの日(誕生日)の7/30は入館無料

7/30(土)「南吉さんの日」(誕生日)式典・大型紙芝居等  
31(日)人形劇、おはなし会などイベント開催(予定)

新美南吉 昭和16年3月

## 新美南吉記念館

〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 TEL (0569)26-4888 FAX (0569)26-4889

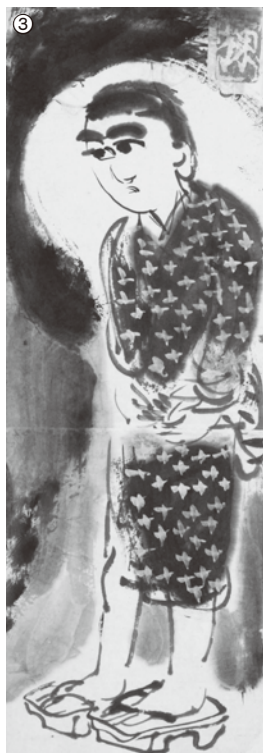
【交通】名鉄河和線/半田口駅より西へ徒歩20分 知多半島道路/半田中央ICより東へ5分

半田市地区路線バス「ごんくる」/知多半田駅(雁宿ホール前)の停留所から15分



# 南吉の昭和17年

～私は死ぬ けれど私の仕事は死なない～



昭和17年、新美南吉は「おぢいさんのランプ」「牛をつないだ樁の木」「花のき村と盗人たち」など多くの作品を書き上げています。それらは第一童話集『おぢいさんのランプ』（有光社）を始め、南吉の死の前後に出版された3冊の童話集のための作品でした。

同年1月には、学生時代に発症した結核の進行に伴い、死の不安や恐怖、文学がせめてもの救いであることなどを連日日記に記しています。しかし春先にはそうした不安や恐怖を乗り越え、眼を見張る勢いで創作に打ち込むようになっていきました。心境が変化した要因はいろいろ考えられますが、自分の童話集が出版されるという夢が現実のものとして目前に現れたからという理由が大きかったのではないのでしょうか。

折しも昭和16年末には太平洋戦争が始まり、当時、安城高等女学校で教師をしていた南吉は、童話作家としても教師としても影響を受けることとなりました。昭和18年3月に29歳で亡くなった南吉が死を覚悟しながら力を尽くした昭和17年。今年はそれからちょうど80年に当たります。

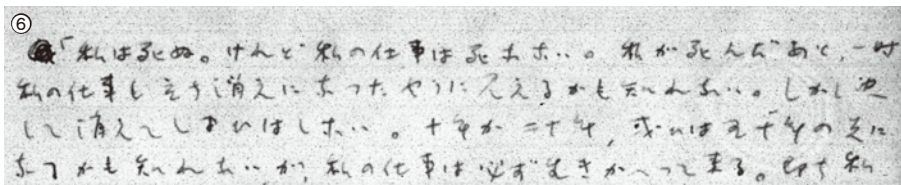
本展では南吉の昭和17年にスポットを当て、3冊の童話集を中心にこの1年が南吉にとってどんな時間だったのかを探ります。また第一童話集『おぢいさんのランプ』の装丁と挿絵を手掛けた、日本を代表する画家、棟方志功の挿絵原画も併せてご覧頂きます。

### 展示構成

- 第1章 昭和17年ってどんな年
- 第2章 南吉の昭和17年
- 第3章 南吉の創作活動
- 第4章 3冊の童話集
- 第5章 棟方志功の描く『おぢいさんのランプ』



- ① 童話集『おぢいさんのランプ』「おぢいさんのランプ」画・棟方志功
- ② 棟方志功（昭和17年撮影／提供 石井頼子氏）
- ③ 童話集『おぢいさんのランプ』「久助君の話」画・棟方志功
- ④ 異聖歌（30代半ば／提供 野村吉巳氏）
- ⑤ 与田準一（提供 与田準一記念館）
- ⑥ 「私は死ぬ けれど私の仕事は死なない」 日記「昭和十六・十七年ノート」から昭和16年12月6日付
- ⑦ 童話集『おぢいさんのランプ』「久助君の話」画・棟方志功



新美南吉記念館  
TEL0569-26-4888

公式 HP・SNS もご覧ください



新美南吉記念館 検索

